

Title	表紙・投稿規定・プレプリント案内・編集後記・裏表紙 ほか
Author(s)	
Citation	物性研究 (1985), 44(1): 317-321
Issue Date	1985-04-20
URL	http://hdl.handle.net/2433/91549
Right	
Type	Others
Textversion	publisher

昭和42年11月14日 第四種郵便物認可
昭和60年4月20日発行(毎月1回20日発行)
物性研究 第44巻 第1号

ISSN 0525-2997

vol. 44 no. 1

物性研究

1985/4

1. 本誌は、物性の研究を共同で促進するため、研究者がその研究・意見を自由に発表し討論しあい、また、研究に関連した情報を速やかに交換しあうことを目的として、毎月1回編集・刊行されます。掲載内容は、研究論文、研究会・国際会議などの報告、講義ノート、研究に関連した諸問題についての意見、プレプリント案内、ニュースなどです。
2. 本誌に掲載される論文については、原則として審査を行いません。但し、編集者が本誌に掲載することを著しく不適当と認めたものについては、改訂を求め、または掲載を拒絶することがあります。
3. 本誌の掲載論文を他の学術雑誌に引用するときは、著者の承諾を得た上で **private communication** 扱いにしてください。

投稿規定

1. 原稿は400字詰原稿用紙を使用し、雑誌のページ数を節約するために極力簡潔にお書き下さい。
2. 原稿は2部（オリジナル原稿及びコピー）提出して下さい。
3. 数式、記号の書き方は **Progress, Journal** の投稿規定に準じ、立体“ \square ”、イタリック“ \sim ”、ゴシック“ \sim ”、ギリシャ文字“ γ ”、花文字、大文字、小文字等を赤で指定して下さい。又特に区別しにくいoとaと0(ゼロ)、uとnとr、cとe、l(エル)と1(イチ)、xと \times (カケル)、uとv、†(ダガー)と+ (プラス)、 ψ と ϕ と Ψ と Φ 等も赤で指定して下さい。
4. 数式は3行にわたって大きく書いて下さい。
5. 1行以内におさまらない可能性のある長い数式等は必ず改行の際の切れ目を赤で指定して下さい。
6. 図はそのまま印刷できるもの（原則としてトレースされたもの）とそのコピーを本文と別に論文末尾に揃え、図を入れるべき位置を本文の欄外に赤で指定して下さい。図の縮尺、拡大は致しません。図の説明を含め1頁（13×19cm）以内に入らないもの、そのまま印刷できない図は原則として著者に返送し、書き改めていただきます。図中の文字は活字にいたしません。図の説明は別紙に書き、原稿に添えて下さい。
7. 投稿後の原稿の訂正はできるだけ避けるようにして下さい。
8. 別刷御希望の方は投稿の際に50部以上10部単位でお申込み下さい。別刷代は別刷代金表（当会にご請求下さい）に従い、別刷を受取ってから1ヶ月以内に納めて下さい。（郵便切手による受付はいたしません。）
9. 原稿締切日は毎月5日で、原則として次月発行誌に掲載されます。

1. 本誌は、物性の研究を共同で促進するため、研究者がその研究・意見を自由に発表し討論しあい、また、研究に関連した情報を速やかに交換しあうことを目的として、毎月1回編集・刊行されます。掲載内容は、研究論文、研究会・国際会議などの報告、講義ノート、研究に関連した諸問題についての意見、プレプリント案内、ニュースなどです。
2. 本誌に掲載される論文については、原則として審査を行いません。但し、編集者が本誌に掲載することを著しく不適当と認めたものについては、改訂を求め、または掲載を拒絶することがあります。
3. 本誌の掲載論文を他の学術雑誌に引用するときは、著者の承諾を得た上で **private communication** 扱いにしてください。

投稿規定

1. 原稿は400字詰原稿用紙を使用し、雑誌のページ数を節約するために極力簡潔にお書き下さい。
2. 原稿は2部（オリジナル原稿及びコピー）提出して下さい。
3. 数式、記号の書き方は **Progress, Journal** の投稿規定に準じ、立体“ \square ”、イタリック“ \sim ”、ゴシック“ \sim ”、ギリシャ文字“ γ ”、花文字、大文字、小文字等を赤で指定して下さい。又特に区別しにくいoとaと0(ゼロ)、uとnとr、cとe、l(エル)と1(イチ)、xと \times (カケル)、uとv、†(ダガー)と+ (プラス)、 ψ と ϕ と Ψ と Φ 等も赤で指定して下さい。
4. 数式は3行にわたって大きく書いて下さい。
5. 1行以内におさまらない可能性のある長い数式等は必ず改行の際の切れ目を赤で指定して下さい。
6. 図はそのまま印刷できるもの（原則としてトレースされたもの）とそのコピーを本文と別に論文末尾に揃え、図を入れるべき位置を本文の欄外に赤で指定して下さい。図の縮尺、拡大は致しません。図の説明を含め1頁（13×19cm）以内に入らないもの、そのまま印刷できない図は原則として著者に返送し、書き改めていただきます。図中の文字は活字にいたしません。図の説明は別紙に書き、原稿に添えて下さい。
7. 投稿後の原稿の訂正はできるだけ避けるようにして下さい。
8. 別刷御希望の方は投稿の際に50部以上10部単位でお申込み下さい。別刷代は別刷代金表（当会にご請求下さい）に従い、別刷を受取ってから1ヶ月以内に納めて下さい。（郵便切手による受付はいたしません。）
9. 原稿締切日は毎月5日で、原則として次月発行誌に掲載されます。

プレプリント案内

[京都大学基礎物理学研究所]

- 4-1 L.G. Melkumyan and S.V. Ter-Antonyan
A New Method of Data Processing from X-Ray-Emulsion Films
in Investigating Nuclear Interactions
- 4-2 O.A. Pizio
On the Calculation of the Ion-Molecular Systems Properties
in the Interaction Site Model
- 4-3 Yu.M. Sinyukov
Gibbs Ensembles in Relativistic-Invariance Statistical
Theory
- 4-4 A.N. Makhlin and Yu.M. Sinyukov
Relativistic Density Matrix in the Diagonal Momentum
Representation. Bose-Gas
- 4-5 Yu.V. Holovatch and V.M. Tkachuk
The Renormalization Group in the Theory of Phase Transitions
(R)
- 4-6 I.R. Yukhnovsky, M.P. Kozlovsky and M.A. Shpot
Free Energy, Entropy and Heat Capacity in the Critical
Region at $T < T_c$
- 4-7 A.N. Makhlin and Yu.M. Sinyukov
Relativistic Density Matrix in the Diagonal Momentum
Representation. Fermi-Gas
- 4-8 W. Bialek and A. Schweitzer
Quantum Noise and the Threshold of Hearing
- 4-9 V. Sahni and K.-P. Bohnen
The Image Charge at a Metal Surface
- 4-10 F.C. Alcaraz, L. Jacobs and R. Savit
Classification Scheme for Statistical Theories with Unusual
Symmetries

プレプリント案内

- 4-11 B. Cabrera, L.M. Krauss and F. Wilczek
Bolometric Detection of Neutrinos
- 4-12 J.E. Gubernatis, D.J. Scalapino, R.L. Sugar and
W.D. Toussaint
Two-Dimensional Spin Polarized Fermion Lattice Gases
- 4-13 K. Machida, T. Ohmi and M. Ozaki
Anisotropy of Upper Critical Fields for d- and p-Wave
Pairing Superconductivity
- 4-14 A. Onuki
Statics and Dynamics in Binary Mixtures near the Liquid-Vapor
Critical Line
- 4-15 Y. Kitaoka, K. Ueda, T. Kohara, K. Asayama, Y. Onuki and
T. Komatsubara
Nuclear Magnetic Relaxation in Heavy Electron Superconductor
 CeCu_2Si_2
- 4-16 W. Hansen and W. Vogel
A Method for the Measurement of Fission Rates in Fast Neutron
Fields using Solid State Track Detectors
- 4-17 P. Schumann
Display-Monitor for an Expert Opinion of Disturbing Processes
in the Field of Noise Diagnostics (G)
- 4-18 R. Klabes
Nonconventional Heat Treatment Techniques to the Modification
of Electrical and Structural Properties of Silicon (G)
- 4-19 H. Roßbach and B. Eichler
Adsorption of Metals on Metal Surfaces and the Possibilities
of Its Application in Nuclear Chemistry
Calculation of Adsorption Enthalpies with the Program AMO
(G)
- 4-20 B. Böhmer
MCANG - A Group Data Library of Cumulative Angular Distributions
of Elastically Scattered Neutrons for Monte Carlo Calculations
(G)

4-21 P. Urwank

User Guide for the Programme System ORION

R : Russian

G : German

編集後記

「計算機物理学」という、一昔前にはおそらく言われた者は、皮肉とまではいかなくても多少のヤユを感じ取らざるを得なかったであろう言葉が市民権を得、まさにそのものズバリの名称の研究会が催されるまでになってきている。6年前に編集後記で電卓や計算機の発展（値下がり？）のめざましさを本欄の行かせぎに使わせてもらったことがある。ちょうど大型計算機で素人に使えるような数式処理プログラムが実用化されるようになった時期であった。「計算機＝数値計算」としか理解していないFORTRAN人であった筆者にとっては、代数計算を計算機にやらせることができるということは大変な驚きであり、その後しばらくはこれを使ってできる問題はないかと、その魅力に夢中になったが、これは邪道というもの、今に至るまで補助的手段の域を出ていない。結局のところ、「従来の（天才を除くごく一般的な）物理学者の費やした時間の大部分を占めてきた物理でない作業は計算機に任せ、余った時間をもう少しともに物理を考えるのに使うべし」と言いきかせつつ、それさえ怪しく計算機に溺れ（追われ？）ている。このような状態から推察するに、冒頭の計算機物理学の提唱者の意図は計算機利用の新しい質であろう。従来の計算機利用はせいぜい「量から質への転化」（これ自体今や古典語になりつつあるようであるが……）としての新しい質の獲得にすぎなかったというのは言い過ぎであろうか？ 「計算機＝数値計算」から「計算機＝情報処理機」と頭をきりかえてみても、やはり処理の絶対量とその速度が新しい質を生み出しているにすぎないとは思えない。もっともこの原稿をワープロで書いて(?)面白がっている程度の、計算機の手のひらの上の遜悟空の想像である。

さて後記をいくら情報処理機で書いてみてもいっこうに新しい質は生れそうもないので、本来書くべきことだけは書いておきます。本号より「物性研究小解説」を設けました。決して投稿原稿の不足を補う「埋めくさ」ではなく、編集委員会で新しい企画をとということで初めたものです。今のところ編集委員会とその周辺に執筆を依頼したものがいくつか集まっていますが、こういうこともという話題がありましたらお知らせください。 (H.T.)

「物性研究」	発行人	蔵 本 由 紀	(京大基研)
	編集長	山 田 耕 作	(京大基研)
編集員		網 代 芳 民	(京大・理 化学)
		小 貫 明	(京大基研)
		戸 谷 隆 雄	(京大・理 物理)
		富 田 博 之	(京大・教養 物理)
		水 崎 隆 雄	(京大・理 物理)
各地編集員		和 田 宏	(北大・理 物理)
		桂 重 俊	(東北大・工 応物)
		鈴木増雄研究室	(東大・理 物理)
		小 林 幸 夫	(東大・教養 物理)
		中 野 隆	(東大物性研)
		勝 木 渥	(信州大・理 物理)
		本 田 勝 也	(名古屋大・工 物理)
		五十嵐 潤 一	(大阪大・理 物理)
		川 部 健	(岡山大・理 物理)

物 性 研 究 第 44 卷第 1 号 (昭和 60 年 4 月号) 1985 年 4 月 20 日発行

発行人	蔵 本 由 紀	〒 606	京都市左京区北白川追分町 京 都 大 学 湯 川 記 念 館 内
印刷所	昭 和 堂 印 刷 所	〒 606	京都市百万辺交叉点上ル東側 TEL (075) 721-4541~3
発行所	物性研究刊行会	〒 606	京都市左京区北白川追分町 京 都 大 学 湯 川 記 念 館 内
年額	13,200 円		

「物性研究」	発行人	蔵 本 由 紀	(京大基研)
	編集長	山 田 耕 作	(京大基研)
編集員		網 代 芳 民	(京大・理 化学)
		小 貫 明	(京大基研)
		戸 谷 隆 雄	(京大・理 物理)
		富 田 博 之	(京大・教養 物理)
		水 崎 隆 雄	(京大・理 物理)
各地編集員		和 田 宏	(北大・理 物理)
		桂 重 俊	(東北大・工 応物)
		鈴木増雄研究室	(東大・理 物理)
		小 林 幸 夫	(東大・教養 物理)
		中 野 隆	(東大物性研)
		勝 木 渥	(信州大・理 物理)
		本 田 勝 也	(名古屋大・工 物理)
		五十嵐 潤 一	(大阪大・理 物理)
		川 部 健	(岡山大・理 物理)

物 性 研 究 第 44 卷第 1 号 (昭和 60 年 4 月号) 1985 年 4 月 20 日発行

発行人	蔵 本 由 紀	〒 606	京都市左京区北白川追分町 京 都 大 学 湯 川 記 念 館 内
印刷所	昭 和 堂 印 刷 所	〒 606	京都市百万辺交叉点上ル東側 TEL (075) 721-4541~3
発行所	物性研究刊行会	〒 606	京都市左京区北白川追分町 京 都 大 学 湯 川 記 念 館 内
年額	13,200 円		

会員規定

個人会員

1. 会費：当会の会費は前納制をとっています。したがって、3月末までになるべく1年間分会費を御支払い下さい。
なお新規入会お申込みの場合は下記の会費以外に入会金として、100円お支払い下さい。

1年間の会費

1st volume (4月号～9月号)	3,000円
2nd volume (10月号～3月号)	3,000円

計 6,000円

(1年分まとめてお支払いが困難の向きは1 volume 分ずつでも結構です)

2. 支払いの際の注意：なるべく振替用紙を御利用の上御納入下さい。
(振替貯金口座 京都1—5312) (現金書留は御遠慮下さい)
なお通信欄に送金内容を必ず明記して下さい。
雑誌購読者以外の代理人が購読料を送金される場合、必ず会員本人の名前を明記して下さい。
3. 送本中止の場合：次の volume より送本中止を希望される場合、かならず「退会届」を送付して下さい。
4. 会費の支払遅滞の場合：当会の原則としては、正当な理由なく2 Vols. 以上の会費を滞納された場合には、送本を停止することになっていきますので御留意下さい。
5. 一括送本を受ける場合：個人宛送本中に大学等で一括配布を受けるようになった場合は、必ず「個人宛送本中止、一括配布希望」の通知をして下さい。逆の場合も同様です。
6. 送本先変更の場合：住所、勤務先の変更等により送本先が変わった場合は、必ず送本先変更届を提出して下さい。

学校、研究所等機関会員

1. 会費：学校・研究所等での入会及び個人であっても公費払いのときは機関会員とみなし、代金は、1冊 1,100円、1 Vol. 6,600円、年間13,200円です。この場合、入会金は不用です。学校、研究所の会費の支払いは後払いでも結構です。入会申込みをされる時、支払いに請求、見積、納品書が各何通必要かをお知らせ下さい。
なお、当会の請求書類では支払いができない様でしたら、貴校、貴研究機関の請求書類を送付して下さい。
2. 送本中止の場合：発行途上にある volume の途中送本中止は認められません。退会される場合には、1ヶ月前ぐらいに中止時期を明記して「退会届」を送付して下さい。

雑誌未着の場合：発行日より6ヶ月以内に当会までご連絡下さい。

物性研究刊行会

〒606 京都市左京区北白川追分町 京都大学湯川記念館内

☎ (075)751—2111 内線7051 (075)722—3540(直通)

物 性 研 究 44—1 (4月号) 目 次

○遍歴電子系に於ける電子マグノン相互作用に起因した 結合定数のくりこみの自己無撞着な計算関 誠一 下平 孟.....	295
○希土類化合物に於ける混合価電子状態の確率論的な 取扱い.....関 誠一, 下平 孟.....	300
○物性研究小解説	
Arnold 拡散	戸谷 隆雄..... 310
カイラリティオーダー.....	宮下 精二..... 311
アンダーソンの直交定理.....	山田 耕作..... 313
Texture (織目構造)	大見 哲巨..... 314
○プレプリント案内.....	317
○編集後記.....	320

物 性 研 究 44—1 (4月号) 目 次

○遍歴電子系に於ける電子マグノン相互作用に起因した 結合定数のくりこみの自己無撞着な計算関 誠一 下平 孟.....	295
○希土類化合物に於ける混合価電子状態の確率論的な 取扱い.....関 誠一, 下平 孟.....	300
○物性研究小解説	
Arnold 拡散	戸谷 隆雄..... 310
カイラリティオーダー.....	宮下 精二..... 311
アンダーソンの直交定理.....	山田 耕作..... 313
Texture (織目構造)	大見 哲巨..... 314
○プレプリント案内.....	317
○編集後記.....	320